

# シリーズ多面的機能支払 熊野・御浜・紀宝

～私たちの思い、そして伝える100年先へ～

たかおかかんきょうかつどうかい

Vol.14 高岡環境活動会(紀宝町高岡地区)の軌跡



## —美しい里山を守り、次の世代へとつないでいく—

多面的機能支払交付金を活用し、故郷の暮らしを守る活動組織の多様な取り組みは、100年先の地域での暮らしへとつなげるための足跡となっている。

本誌では、活動組織の地域に対する思い、今後の展望についてインタビューし、シリーズ企画として皆様にお伝えしている。今回は、地域の様々な方と協力しながら田園風景の維持に取り組む「高岡環境活動会」を紹介する。

## 地元愛で守り抜く

## 高岡の未来に向けて



会長 榎本 周二さん

紀宝町高岡地区。紀宝町中心部から相野谷川沿いに10分ほど車を走らせると左手に高岡地区が見えてくる。相野谷川沿い一体で農地を守っている集落のうちの1組織である。

この日は、冬の寒い風が肌を刺すような日であったが、高岡地区は周辺の山が冷たい風を止め、とても暖かい陽気な日となっていた。

今回は、高岡地区で地域への愛を人一倍持っている高岡環境活動会会長の榎本周二さん、会計の榎本稔さんにお話を伺った。

### —組織について、教えてください。

榎本稔—今年で設立して18年目になり、構成員は約15名います。構成員のほとんどは地元住民ですが、中には高岡地区出身で地区外に住んでいる方も、活動の際に戻ってきて参加しています。

また、他にも熊野市や和歌山県新宮市等から

も若い方が耕作をしに来ており、若い方の力もお借りしながら活動しています。周二くんも若く力があがり、とても頼りになっています。

榎本周二—私も高岡地区出身ですが、元々は熊野市で勤めていました。しかし、地元に戻り農業を行うことになったため、今に至ります。

子どもの頃は農業をしていた親の手伝いをしていましたが、実際主として農業に携わると大変なことが多いと感じます。しかし、稲を一から育て、田で成長している姿を見ていると愛着がわき、農業を楽しんでいると思っています。



【高岡地区の田園風景】

### —若い方の力があると、農業にも活気がでますよね。

榎本周二—どの地域も同じだとは思いますが、農業者の減少、高齢化が深刻になってきているので、その中で若い方の力があるのは、とても嬉しいですね。

また最近では、移住者が結構増えてきています。この自然豊かな地区に住みやすいと評判になってきていると聞きました。

榎本稔—移住者の方々は、現在は農業に全く関わりが無いので、今は一緒に農業をできれば良いと感じています。

### —組織の活動は、どのような事を行っていますか。

榎本稔—主に草刈り、水路掃除を行っています。草刈りは年に数回実施しており、水路周りの草刈りと併せて行います。



【景観作物活動】



【頭首工の土砂撤去の様子】

水路掃除については、水路が総延長11.8キロメートルあり、長いうえに掃除をするのが大変なため、若い方に任せています。この地区の水路は、徒歩でしか行けず、20分ほどかかる所があります。昔は私も掃除をしていましたが、年々厳しくなってきたので、若い方に甘えさせてもらっています。

### —獣害柵を設置しているのを拝見しましたが、獣害はどのようですか。

榎本周二—獣害柵を設置できる場所は、できる限り設置しています。両側が山に囲まれているので、動物の住処となっており、エサがある所に寄ってきます。地区全体に獣害柵を設置できれば良いのですが、まだ全て囲えていないため獣害を防ぎきれないため、獣害対策をこれから強化していかなければいけないと感じます。

### —今後について、思いをお聞かせください。

特に高岡地区は、カニの被害がとても多いです。カニは獣害柵をくぐり抜け畦畔を掘るため、畦畔には無数の穴ができます。水をためる時期になって初めて至る所から水が漏れているのを発見するため、農作業の前にはまず畦畔の修理から始まります。この修理はとてきないかと模索しています。

今後は高岡地区に限らず、相野谷川沿いの地区一体を獣害柵で囲い、獣害対策をしていきたいと考えています。

榎本稔—一番は、地元の風習・風土をこれからも守っていききたいです。あと20年後には街が無くなるなどのニュースも見ますが、地元のみんなが今よりも盛り上げていききたいです。

榎本周二—農業について、まだまだ分からないこともたくさんありますが、勉強しながら楽しく活動していきたいです。

自分が育ってきた高岡地区への恩返しという意味も込めて、これからも農業を頑張っていきたいと思えます。そして、地域の活性化に繋がれば、なお嬉しく思います。

### ■取材を終えて

生まれ育った地元のために、地区外に住んでいても、活動の時は地元に戻るといような地元愛に包まれている組織だと感じた。

また、獣害という問題があるが、動物の行動を読みながらどのように改善すればよいか模索し、より良い活動になるよう積極的に行動していると感じた。

移住者も増えているので、農業に関わってもらえば活動の幅も広がる。若い力を借りながら地域住民を巻き込み、地域が活性化するように、これからも守っていく。

地元を愛し、地元のために、この田園風景を維持していくだろう。



【組織の仲間】

取材：三重県熊野農林事務所 山口、西崎 紀宝町役場 清水  
三重大学 杉浦(令和6年12月)  
問い合わせ先：熊野農林事務所 農村基盤室 農村計画課(0597-89-6128)

| 組織名     | 組織設立年 | 活動面積                  | 活動メニュー               |
|---------|-------|-----------------------|----------------------|
| 高岡環境活動会 | 平成19年 | 約42ha(田)<br>約0.2ha(畑) | 農地維持支払<br>資源向上支払(共同) |

